

研究タイトル:

氏名: 奥山 広規 / おくやま ひろき E-mail: okuyama@tokuyama.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 広島史学研究会, 広島西洋史学研究会, 日本西洋古典学会 他

キーワード: 古代ローマ史, 西洋古代史料学(グラフィッティ, 碑文)

技術相談  
提供可能技術: ・西洋古代文字史資料分析  
(活字化される前のギリシア語・ラテン語史資料の分析(文字同定, 支持体分析など))



研究内容:

1) 現在の研究課題の概要

古代ローマ時代の日常生活についてグラフィッティの観点から研究を行っている。検討の対象となる遺跡は、主にエルコラーノ、ポンペイ、オスティア＝アンティカの3つであり、現地調査を行ってグラフィッティを実見し、コンテキストを踏まえた分析を行ってきた。エルコラーノ遺跡・ポンペイ遺跡では、先行調査・研究が極めて厚いので、その把握とグラフィッティの実見にとどまっているが、オスティア＝アンティカ遺跡では、先行調査も研究も少ないので、まずはコンテキストを踏まえたデータを得るために2017年以来既知グラフィッティの悉皆調査(既知グラフィッティの確認、現状と実態把握)に取り組み、成果を上げている。たとえば、2024年度では、9の遺構で行った確認調査による9点の既知グラフィッティの確認、実見に基づく9点の新たな知見の獲得(情報の追加、従来の判読や解釈の修正)、そして、確認調査に際して6つの遺構から発見した新出グラフィッティ35点(文字グラフィッティ31点(数字25点、商業関係3点、日付1点、不明な文字列2点)、画像グラフィッティ4点(人物画像2点、不明なオブジェクト2点))の刊行である。新出グラフィッティの多くは単純な「数字」であるが、数字ゲームやゲームボードと解釈できるものがあり、「数字」の機能を広げるものとして重要である。また、Caseggiato (III, XVI, 2)は「数字」が1か所に17点も集中しており、Caseggiato dietro la Curia (I, IX, 1)でのみ知られていた「数字」の集中(1か所に33点)の類例として興味深い。結果として、通算で対象となる64遺構(887点)のうち48遺構(792点)で調査を行い、そのうち、新出グラフィッティも含めて588点を確認することができた。なお悉皆調査によって得られた情報は、史料紹介として刊行したうえで、テーマごとの分析に落とし込んでいる(「数字」については学会報告し、「性的」なものについては学会報告を経て、論考として刊行した。なお、エルコラーノ遺跡・ポンペイ遺跡の現地調査による実見成果は、比較対象としてオスティア研究に盛り込んでいる。

2) 主な学会発表・研究業績(近年のもののみ)

【学会発表】

・「オスティアの『数字』グラフィッティ—Case a Giardinoの事例を中心に—」、日本西洋古典学会第71回大会 (Zoom発表、2021年6月5日)

【研究業績】

・「オスティアの『性的』グラフィッティ—Domus di Giove e Ganimede (I.iv.2)—」、『史学研究』(広島史学研究会), 第313号, 38-55頁, 2022年9月。

・「2022年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」, 『西洋史学報』(広島西洋史学研究会), 第50号, 213-235頁, 2023年11月。

・「2023年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」, 『西洋史学報』(広島西洋史学研究会), 第51号, 79-96頁, 2024年12月。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	